

- なぜこのようなウバメガシの純林が形成されたのか？
急斜面は表土が薄く、樹木が育つには決して恵まれた条件ではない。
この悪条件に生える樹木の多くは、悪条件に耐えながらも生きていかざるを得ない樹種であると考えられる。
言い換えれば悪条件でも生きていける適応性を持った樹木であるといえる。
逆に、恵まれた場所はコジイなど競争力に勝る樹木が占めているといえる。
- 神戸の森林は本来コジイやスダジイなどのシイの仲間、そしてアカガシなどのカシの仲間により極相林が形成されるといわれる。
ただ急斜面など悪条件下では適応力に優れたウバメガシなどが極相林を形成することになる。

※ウバメガシの純林は須磨の旗振山から高倉台にいたるコースの左右の急斜面でその典型を見ることができる。

◆ J地点からC地点までの山腹の水平道

- コジイの高木がまた立ち並ぶ森となる。
ここでも樹冠がつくる独特のドーム状の天井が観察できる。
- この道の脇に太山寺を特徴付ける樹木のひとつであるタイミンタチバナを何株か目にすることができる。
- オガタマノキを散策路脇で一本見ることができる。
- 全行程を通して常に目にする樹木はカクレミノとカナメモチでした。



タイミンタチバナ



オガタマノキ

◆ A地点から磨崖仏(K地点)までの川沿いの舗装路

- 川沿いでイタピカズラの大きな株がある。
この株は毎年びっしりと実(果囊)をつける。
イチヂクの仲間であることがこの実から伺える。
- この道路際には多くのアキニレが生えている。
道路工事により山が削られ、圧倒的な太陽光が差し込むようになり、このような典型的な二次林を形成する樹種が生えてきたことが想像できる。
- 磨崖仏の上部の急斜面もほとんどウバメガシで占められていることが観察できる。



イタピカズラの実

磨崖仏

